

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第1回上越市健康づくり推進協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越市の健康に関する現状と課題について（公開）
- (2) 令和2年度の保健活動の取組状況について（公開）

3 開催日時

令和2年8月12日（水）午後7時00分から

4 開催場所

上越市役所木田第1庁舎4階 401会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：16名中 14名出席

林 三樹夫、高橋 慶一、山岸 公尚、上野 憲夫（代理：押山 貴光）、
星野 詩子、橋爪 隆之（欠席）、保坂 正人、上野 光博、
高林 知佳子、平野 恵美子、小澤 裕、中戸 賢裕、田中 公彦、
篠田 奈穂、山本 洋子（欠席）、早川 義裕

・事務局：大山健康子育て部長、渡辺すこやかなくらし包括支援センター所長

松崎国保年金課長、大石保育課栄養士長

大瀧福祉課副課長、橋本高齢者支援課副課長

宮川学校教育課長

田中健康づくり推進課長、齊藤副課長、坂上上席保健師長、小林保健師長、
和久井主任、今野主任

8 発言の内容

【開 会】

- (1) あいさつ 大山健康子育て部長

(2) 議事 事務局が資料により説明

林議長 : 上越市健康増進計画(改定版)に基づく保健活動と、今回の糖尿病重症化予防の取組について、それぞれの立場での役割や取組について意見を伺いたい。

まず、高橋委員に医療現場での取組や診療の実態、糖尿病連携手帳の活用について伺いたい。

高橋委員 : 糖尿病患者をたくさん診ている医院として、基本的には、糖尿病連携手帳を患者全員に渡している。手帳は来院した時に分かっている検査数値を受付の段階で書き込むが、診療では電子カルテでデータやグラフ、表にしたもので、状況の変遷やトレンドを説明しているため、使うことは少ない。

しかし、薬局、歯科や泌尿器科、腎臓など別の問題で他の病院に行く方が多いので、糖尿病手帳とお薬手帳はセットにして必ず持って行くよう強く指導している。他の腎機能や肝機能異常の有無、あるいは、血糖といった他の科が診療するときに必要な情報が書き込んであるためである。

患者全員に渡して、この手帳を普及させる積極的な働きかけが必要なのではないかと思う。その一つのルートとして、行政が必要と思われる方に渡すことで、今後使っていく可能性があるため、非常に良い試みだと思う。

林議長 : 糖尿病連携手帳は医療機関からだけ入手できるものなのか。あるいは、糖尿病患者が独自にアプローチして入手することができるのか。

坂上上席保健師長 : 高橋委員からも説明があったが、主治医から渡される場合と、市が健診結果を見て必要と思われる方で、主治医からまだ手帳をもらっていない、まだ受診していないという方には配付している。

林議長 : 高橋委員、この手帳はどの程度普及していて、どの程度活用されているかお聞きしたい。

高橋委員 : 他の施設の実態は分からないが、私の印象としては、糖尿病を中心的に行っている病院の糖尿病外来や糖尿病専門クリニックは、原則患者全員に配付し、データをきちんと記入していると思う。

自分の医院では、電子カルテを使って指導を行い、患者は手帳を手元に置き、自分のデータを持ち歩けるようにしている。

また、歯科や眼科、他の様々な機関が情報を書き込むスペースが充実しており、他の施設からの情報が届く経路として重宝している。報告書だと文章を書くのが

負担になるが、手帳の所定の箇所にその所見を簡略に書き込むのであれば、大した負担にならず、手帳でのリアクションをもらう場合が最近増えている。患者が何科の先生が「OK」と言ったというのでは、医者としては心もとないが、手帳に最近の所見が書いてあれば、納得できるということである。

林議長：医療機関、その他の機関との連携ということで手帳が役立っているのだが、この手帳にはヘモグロビンA1c等の結果が記載されており、患者が自分自身の健康状態を常に、経時的に把握して、どのようなものなのか自覚できるような意味合いも持っているのか。

高橋委員：そうであってほしいが、患者ごとに感触が違うように思う。診療の段階で毎回いろいろな検査数値を示して説明するが、話した事がしっかりと染み込んでいない患者が多く、血糖がかなり悪いと、処置をするのに問題があるため、歯科や眼科から問い合わせが来ることがある。そういう場合にこの手帳を持っていれば、情報が伝わる。

最近強調しているのは、災害があって避難するような場合に、「お薬手帳と糖尿病連携手帳は必ず持って出なさい」と説明している。

お薬手帳と糖尿病連携手帳、保険証があれば、薬が手に入ると考えられるということで、助けになるという話をしている。

林議長：糖尿病性腎症に関わることで、上野委員、一言お願いします。

上野委員：糖尿病性腎症の重症化予防について、ヘモグロビンA1c6.5%以上の方が減っているが、8%以上またはeGFR45未満の方はあまり変わりがなく、血压Ⅱ度以上が増加している。こうした状況にあって他の地域と比べると、ヘモグロビンA1c6.5%以上やコントロールの悪い人の割合は新潟県の中では低い方と聞いており、市の取組の成果が表れていると思う。

糖尿病性腎症ないしは重症化予防は、血糖、血压、高脂血症の3大コントロールにポイントがあると思う。

当市の特徴は、以前から言われているように、高血压のコントロールが悪い人が多く、そのために脳出血が多いという状況もある。糖尿病患者においても、血压が高い人が悪いということで、この3つのポイントについて、重点的にコントロールを良くしていきましようという患者に指導している。

特に血压については、自宅での血压測定を推奨し、血糖値は生活指導をしながら

ら薬を処方するが、我々が診られる短い診療時間では、とても説明できないので、市から栄養指導、食事の面で特に減塩について説明してもらいたい。

私も外来で糖尿病連携手帳は全ての患者に配布して、私自身も書いているが、数値表の項目名が英語で書いてあり、例えばLDL-CやeGFRとは何のことかを理解していない患者に出くわすことがある。

こうした基本的な項目の説明についても、市の保健指導において、確認や指導をしてもらえると助かる。また、手帳を更新すると新しい手帳しか持って来ず、古い手帳を無くしてしまうこともあるので、まとめて手帳を取っておいてもらおうと、非常に役に立つのではないかと思う。

眼科を受診した時には、眼科の記載欄に記入してもらい、緊急に医療機関で罹る場合にも、処方せんと手帳を持って受診することを指導している。

資料2の糖尿病連携手帳のところで、CKD（糖尿病性腎臓病）の面で、多職種が情報共有するのは非常に良いことだと思う。特に外来では、再来の患者がほとんどなので、経年的な変化についてグラフにしてもらえると、可視化されて見える化され、役立つのではないかと感じている。

この糖尿病連携手帳は、ヘモグロビンA1c 6.5%以上の人に、市が購入して配付しているというのは、非常に良い取組だと思うので、今後も取組を続けて、少しでも重症化予防、透析導入の予防に役立ててもらえればと思う。保健指導で7割が医療につながっているのは非常に良いことだが、残り3割の方についても、今後さらに検討して、医療につなげてほしい。

林議長：上野委員から話のあった経年変化、資料2の右下の部分は市が作ったものか。今、活用されているものなのか。

小林保健師長：経年変化のグラフについては、市が作成して、本人に渡して説明をしている。今年度は特に、ヘモグロビンA1cが8%以上または6.5%以上の方に渡して、本人と数値を確認し、医療機関に持参するよう説明していきたい。

林議長：手帳に何かを挟み込むとか、あるいは貼り付けるとか、そうした工夫も良いと思う。

次に、歯周病が糖尿病患者に多く、また歯周病が糖尿病に悪影響を及ぼすこともある。山岸委員から、歯科医の立場で糖尿病への取組、あるいは糖尿病連携手帳の活用について、意見を伺いたい。

山岸委員：糖尿病と歯周病医科歯科連携促進モデル事業報告書があり、魚沼で糖尿病と歯周病に関しての医科歯科連携の推進モデル事業を行ったものである。事業期間が短く、協力医療機関や患者の数が少ない統計ではあるが、医科歯科両方受診される姿勢のある方は、良好なコントロール管理がなされているということが示唆されている。このモデル事業は、糖尿病連携手帳を用いて行われており、この手帳を上手に活用して、医科歯科両方受診するような行動をとってもらえれば、とても有意義だと思う。このモデル事業では、連携手帳の他に不足する情報を補足するペーパーなども使われていたようだが、ややヘモグロビンA1cが高めの方に対して、抜歯などの外科処置をする際には、主治医と簡単にやりとりできるような補助するペーパーがあると、手間が少なくて良いと思う。

モデル事業の中で、連携手帳や他の資料への記載、その手間が大変だったという感想も報告書に載っているなので、その辺りもシンプルにすれば、先生方も活用できると感じた。

林議長：糖尿病患者は、糖尿病や高血糖によって感染しやすいとか、あるいは血管がもろくなり、それで歯の周囲組織がもろくなって、歯周病を患って、歯槽骨などを失うといったことを意識しているか。

山岸委員：患者は最初意識していないと思う。糖尿病があると感染しやすく、重大な術後感染を起こすことがあるため、術前には抗生剤を投与しながら処置する。処置や投薬に際しても、糖尿病患者はたくさんの薬を飲んでいるので、薬の併用や禁忌事項に気をつけながら処置している。

お薬手帳があるので、連携手帳に処方薬は書かれていないが、「こういう薬を飲んでいるから、この系統の抗生剤や鎮痛剤は使わないでください」といった情報が記載してあると、安心して使えると思う。

林議長：歯周病等を適切に治療していき、ヘモグロビンA1cの悪化を防ぐとか、あるいは改善が見られたという患者の例はあるか。

山岸委員：歯周病の治療をしながら、同時に糖尿病の治療をされている方、歯ぐきから出血しなくなったら、ヘモグロビンA1cの値が改善したという患者もいる。様々な文献を見たり、臨床での患者の話を伺ったりしていると、歯周病治療は糖尿病の方にも効果があると感じている。

林議長：押山委員から、薬剤師会として、連携手帳を用いた取組の説明をお願いする。

押山貴光氏（上野憲夫委員代理）：今回、薬剤師がこの手帳のことをどれだけ知っているのかアンケートを取ったところ、手帳のことはほぼ知っているという結果になった。

また、服薬指導を行った際に、手帳に指導内容を記入したことが「ほとんどない」ということが分かったので、今後は薬剤師会でも勉強会などを開いて、この手帳の啓発をしていきたいと思う。

林議長：服薬アドヒアランス^注の不良患者についての対応や、飲み合わせ等の問題もあるかと思う。例えば、一包化するという工夫もあると思うが、薬局では患者が医師が処方した治療薬にどれだけ理解して納得しているか、薬局の方で確認して、服薬状況を把握し、また指導していくのかと思うのだが。

注 患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って自ら行動すること。

押山貴光氏（上野憲夫委員代理）：食直前の薬や飲み忘れが、糖尿病患者にも多い。糖尿病に加えて、高血圧や高脂血症があると、複数の薬が処方されているので、一包化をして、正しく内服できるようにしていき、医師とも連携を取っていきたい。

林議長：次に、保坂委員から、ケアマネジャーとして、糖尿病連携手帳を用いた取組の可能性について、意見を伺いたい。

保坂委員：ケアマネジャーは、糖尿病治療の有無を把握することができる。すでに診断があり、治療を開始している方を担当することがほとんどなので、明確な発症予防は行えていないのが現状だと思う。

連携手帳の存在は知っているが、患者本人から見せてもらった、あるいは家族から提示されることはないため、どのような内容が書かれているのかは、把握できていないというのが実情である。

林議長：保坂委員、連携手帳を活用する場面が出るとすれば、どのような場面か。

保坂委員：食生活が乱れている方は、定期的な訪問を行い、数値を見せてもらえれば、私たちがアドバイスができるし、主治医に数値が悪化している状況を伝えられると思う。

林議長：次に、在宅栄養士会として、糖尿病の重症化予防に取り組む、あるいは連携手帳について、星野委員にお話をいただきたい。

星野委員：病院の管理栄養士に、この糖尿病連携手帳の活用状況を確認したら、栄養指導の際に、検査数値を電子カルテで確認できるため、この連携手帳は見えていないということだった。

連携手帳の運用は、病院ごとに違うようだが、患者本人が外来で自分の数値を手帳に記入していくため、医師や看護師、その他医療従事者が手帳に何かを書き込むことはないということだった。

市の保健師や栄養士がこの手帳に記載をしていると話したら、今後は手帳を見ていかなければならない、そして、私たちも手帳に書くということだった。ただ、病院の管理栄養士が記入するにしても、スペースが少なく感じたし、また一定の記録のルールがあると良いと思う。

そして、住民に向けた啓発では、広報上越、SNSなど市の広報媒体で、糖尿病について、そして指導の時に糖尿病連携手帳を見せてほしいと啓発してもらえたらとの意見があった。

私の職場である上越保健所でも健康施策として、糖尿病対策に取り組んでいる。今後も関係する皆様方、そして市の皆様方と一緒に糖尿病対策について、また栄養士会としても、この手帳を連携ツールとして活用していきたいと考え、今年度、具体的に取り組みたいと考えている。

林議長：基幹病院においては、多職種チーム医療が定着しているが、地域医療となると、この連携手帳を使って、様々な方と連携していくということになるか。

星野委員：ぜひ行っていきたいと思う。

林議長：他の委員で意見があれば伺いたい。

高林委員：資料2にある経年変化で、市の保健師が訪問や面談をした結果、7割以上の方が医療機関につながっていることは、本当に認めるべきだと思った。

協議会委員の全員が、連携手帳のことを知っているだけではなく、患者本人や家族が、この手帳のことを理解するのが基本だと思っている。SNSやパソコンの扱いが得意な方には、そのような媒体での啓発も良いのかもしれないが、高齢者やパソコン関係が苦手という方は、広報紙がメインになると思う。

広報紙を読む市民に対して、手帳を使ってこんなことが便利だったなど、実際の声を入れるような形で示すことにより、多くの方が糖尿病連携手帳があるのだと認識することから始めていけばよいと思う。

林議長：本日の皆さんの意見を参考に、それぞれが保健活動に取り組まれるものと期待している。これで議題を全て終了し、議長を解任する。

田中課長：委員の皆さんからいただいた具体的な意見については、今後の保健活動に反映

し進めていきたいと思う。当協議会は、年間 2 回の開催を予定しており、次回は令和 3 年 2 月頃の開催を予定している。時期が近くなったら案内する。

これで、令和 2 年度 第 1 回上越市健康づくり推進協議会を終了する。

9 問合せ先

健康子育て部健康づくり推進課健診・相談係 TEL : 025-526-5111 (内線 1164)

E-mail : kenkou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。